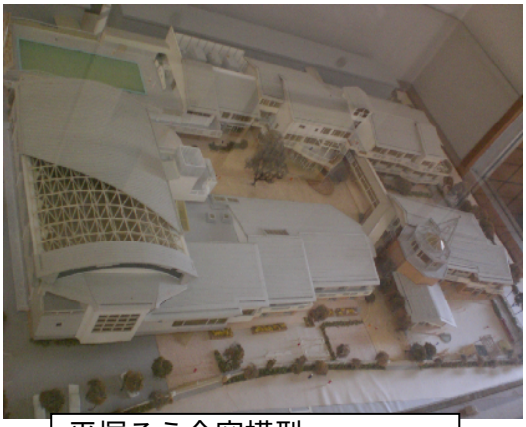
長野ろう学校
校舎改築通信

2号

平成２１年４月２４日
長野ろう学校
校舎改築委員会

平塚ろう学校視察報告

４月１６日（木）に行って参りました視察の報告をいたします。



平塚ろう全容模型
設計で賞を取る

【平塚聾学校】

改築担当であった先生に話も伺い、校内を案内していただきました。

担当の先生からは、設計者は、見栄えがする物を作りたい意向が強かった（バブル絶頂でお金もあった）が、学校としては日常の機能を重視したかったので、変更してもらったことがあったそうです。明るさを考えて、普通教室は東側に、西側は普段をあまり使わない教室にしたり、バリアフリー化してもらったり。（在籍している幼児生のためだけでなく、外来者のことも考える。）同窓生やＰＴＡ、協会など様々な方々からの意見を聞きながら、決めていく方がよい。そして、聴障者、保護者、地域などに開放されて使われるような学校にすることも必要。開放できる場所はどこにするか、休みの日の管理もしやすいような構造にすると良い。等のお話をお聞きしました。

校内は、とにかく明るく、廊下にホールなどもあるようなゆとりのある空間であったことが印象的でした。玄関と各教室には、緊急配信システムテレビが取り付けてあり、パトライトもきちんと目立つようにつけてあり、聴力検査室も広めにそして幼児用、小学生以上用、一般者用と３つに分かれており、本校のように調理室で補聴器点検などでなく、きちんと特性検査室があり（資格を持った教員が普段はやっているようです）、パソコン室、理科室は利用度が高いので２室あり、陶芸室と美術室は分かれていたり、図書館も読み聞かせのできるコーナーが作られていたり、保健室には和室の場所もあったり、流しも洗い物用と医療用を設置してあったり・・・等々、聾学校として当たり前のことなのですが、本校にない設備がきちんとそろっており、敷地は狭くても必要な設備はしっかり備えてある学校を作れるようにしていかなければと改めて思いました。

小さな子供が遊びながら
でも測れる聴力検査室

センター機能では、専任教員だけでなく、言語聴覚士、臨床心理士の方もいらっしゃるそうです。

これからも、いくつかの学校を視察に行って、ぜひ全国に誇れるような長野ろう学校にできるよう話し合っていけたらと思います。